

詩歸新編

三菱社の借屋高嶋炭坑の事が世間の問題と爲りしより現場の實況を觀察せんとて態々其地方に出現する者甚ざ少なからず百聞一見に若らずとの謹もあれば遠方に居て世間の風説を聞くよりも現に其場所に臨んで實況を見るは何よりも體ある可き又似たれども鄙見を以てすれば觀察者の所爲に解す可らざるものある其次第と陳べんと本來この事たるや高嶋炭坑にては坑夫を虐待して人間世界にある至じた慘状を呈する云ふの問題にして事實に然るとさは坑主の曲事なり然らざるよては世間の風説こそ誤なれ、孰しが専か實か之を糺さんとて扱は觀察旅行の舉に及びしとならん然るに凡そ人情の常として身に後暗などあらざれば内外を打明けて人に示すも憚る所なしと雖も一點の非あるに於ては様々の方便を設けて之を飾り之を隠さる者あり故に高嶋炭坑の實際毫も異狀なくして世間普通の事業と執り普通の法を以て普通の労働者を使役するときは如何なる觀察に逢ふも痛痒の感なく有るものと有りの空と示す可きなれども萬々一にも別世界の事情、人に示して心苦しきものあらんか之を飾り之を隠す可けのみ何ぞ専更に自家の内實を打明けて公然たる來客の耳目に觸れしむるが如に拙と行ふ者あらんや之を諭へば某家のまゝ母はまゝ子を取扱ふよ慘刻あり某貸座敷の主人は娼妓を遇するに無情なりとの風説を聞きイデ其虚實を糺さんとて表門より案内を乞ひ、時に尋問の筋あり此家子供は如何に養育するや此店の娼妓へは如何なる勤めと命して如何なる衣食を給するやと聞き又その家内店中の事情を黙留觀察玄て判断と下ざんとするものゝ如し觀察者へ果して如何ある言を聞き如何なる事情を見る可きや、世間の風説本來無根なれば觀察者は唯ありのまゝと聞見して徒勞に勞するまでのふと非を取締ひ妓樓洋々家族團樂の趣と製作して一時の春色を催ほし慈母愛子、義主人安樂娼妓の外面を裝ふは甚だ難事みならざる可也左れば今回高嶋坑の觀察者も先方へ着の上、坑門に案内を乞ふて坑の當局より事務の規則等を承はり尙ほ内部百般の事情に眼を配るも非難す可き信條とては一點とも見出すと能はざるや明なり如何とされば坑事部て平穏なるときは固くこれまでのことなれども若しも然らずして世間の風説の如く高嶋の風光断腸ゝ堪へざるの形跡あるにもせよ坑國は愚あらず不行届あらずして公然たる來客に自家の弱點を示す者にあらざれば故に彼の觀察者が觀察の目的を達したうと稱して歸來し或は其記事報告書を作りて世に公にすることもあらんに書中の文字割て和氣を含み高嶋の春色海の如しそて暫て怒濤激浪の墨痕なる可しと世間には今より之を期する者なきにあらず

人力車夫と叱咤する聲と以て貴婦人を接し、さらば婦人は絶倒することあらん紳士の盛會と馬丁と列座せしめなば其窮屈は力役よりも苦しからん故に車夫馬丁貴婦人紳士の生活の殊なるに從て其情を殊にし其情の殊なるよ從て又その御法を殊にせざるを得ず然ると道理の一偏より立言して人を御するの方法までも一樣にせんことを求むるときは遂には馬丁を制するに貴婦人の接對法を以てせんとするが如き奇談を聞くに至る可し然りと雖も國の法律は至大至重のものなれば御法云々に變通論よりして漫に進で法律を破るの口實と假すに恐ながらにあらざれば炭坑の視察者が眞に獨立獨裁の視察者にして人を爲めにあらず自から爲めに人事の理非を視るに悉心あらば炭坑の當局者に秘そるのみならず世間一般の目を忍び微服して自ら坑内に入込むゝ又は至當の人物と使用玄て秘密と事實を探り然后に大に判断する所のものある可なり

七

○清麿公使
仙臺八月十八日午後特發

○蝗害 福井八月十八日午後特發
福井地方には又々稻作に蝗虫を發生し損害頗る多し

獨逸の參謀本部長モルトケ將軍は其職を辭し後任はウ
オルダーレー將軍が命ぜられたり

伊國土官の引率するアビシニヤ援軍三百五十名は全く敗績せり

バークル氏はタイムス新聞に對し五萬磅の損害賠償を起訴し續いてレッドモンド、オーコンノル二氏も同額

○高鳴の炭坑 三菱社が開拓して石炭採掘の業を営んでゐる。

長崎港の入口なる高畠炭坑にては坑夫と遇するの状其當と得す傍観に堪へざるものありとて近時世間に其當すしく同等一様の人間にして取扱ふる吏

ある可うらざると勿論なれば始めて惨状と耳にしるものは驚くの餘り果ては尋常温良の勞働者を使役するの方をと詰して炭坑の就夫を在すべし乞お給ひの旨

騒を來したり坑夫の取締りも一種他と異なる所あるは其由來する所、遠くして日本の炭坑に珍らしくらず高鴎炭坑にて坑夫と待遇するの方法も非今之設かとる

ものに非ずして幾久しき以前よりの事なれば始て之を耳にしらるものか驚愕の餘り急激の變化を企望するは

望みよ應じ兼る理由もあらん去りとて日本國內の然かも開港場の目前にゐる高島の處より一種の治外法權をそぞせしの日本領事の爲め云々と看ことて此論の宜しか

を馬東風と間流す譯にもゆかず爲み三菱社も苦慮の體ある由なりしが此略さの世間に傳はりてより實地を踏んで略さの實否を確めんと其筋よりは吏員の出張したるありと云ひ又文筆に長をもつ人々も此炎天を冒して東京大坂より遠く高嶺に赴くもの寡のらざれば是等の吏員文いふ事すのうへて至りて半日ばかりの事にて

細川藤孝氏は昨日當地に來り今朝九州

得べく高嶺坑内和氣雍々として一の慘状なしとの報道に接して世人再び驚きと嘆するの時あるべしと云へり
○乗車入門の制限 治者たる官吏の外には人間ありらずし其以前よりの餘流と汲みてか今日にても諸官衙の門内には人によりて乗車の僅に入るを許さず官尊民卑は致し方なれど日本の習ひなりと断念するも雨天に諸官衙の門を出入したる人民は忘れんとして昔日舊幕府の權勢を忘る能はず隨分情なき日本人民の有様を歎つに就け外國の平民は勝手次第に外務省の官門より馬車を轍りて空意氣揚々たる様を見れば清國版圖の域内なる上海の公園地に「支那人入る可ウラズ」の制札も外事ならずとは毎度耳する苦情にして此苦情を絶つの法は極めて容易なるが如く官門の内狭くして車馬に入るゝの餘地なしとあらば粒々辛苦より築りさる八千餘萬圓の租稅あり官衙の構内を廣むべし埋屈に於ては何の苦も無き車輿あれども皆實際は如仇にと云へば多年の苦情嘗て怨められたるとなし然るゝ幾商務省にては今度乘車入門の禁を解き官吏は奏任判任を仰げず平民よても其車の借省門を出入すると勝手次第となたるよし事瑣細に見ゆれども瑣細の處も官尊民卑の舊風を維持して徒ら人心を損するとなく實際の便利より大方ならず世人は此乘車入門の解禁を聞いて農商務省の處置に深く満足するならんと云へり

○青木外務次官
が一昨十七日午前
中なる鈴木水産局
畢りて歸京すべし
○鍋崎侯 同式部
京と出發すると
○非職滿期 非職
六日にて非職滿期
○故金子氏遺族
氏は在官中死去せ
程農商務省に於て
○華族卒去 正工
立則氏は一昨十
○有嶋税田長
鎌倉鶴ヶ岡の別
出發せしが凡る
○神戸在留英國領
横濱在留の英國領
○獨露兩帝の會合
帝ウイルヘルムム
トに會し翌日露
の諸報に依りて
瑞典、丁抹王と公
要館を譯載せんに
バルグ發の報に日本
ビスマートク伯等を
にて露帝及び皇帝
クラスノーヨセフ
貴し同夜ヒータ
國皇后内閣諸大臣
日獨帝はクラス
地演習を檢閱し宣
ケラゴリア氏に夫
兩帝の會合の必
の説をなす者あり
る結果を生ぜざ
報に曰く本日露
ン號の甲板にて
て別意を表する
き一帯の黒煙を
首都ストックホ
トツクホルム發
は獨逸皇帝を迎
に搭じて港を出で
ヘンアーフーン號に
頃當港に着し獨逸
王と懇話となし
て獨帝の萬歳を印
の軍械を奏し國王
オスカル王と暫時
國間の交情益々良
之々答へて瑞典領